

赤羽根市民センター整備事業

問 跡地利用の検討について、具体的に今後どのように進めていくのか。

答 赤羽根地域コミュニティ連絡協議会等と調整を図りながら進めるとともに、必要に応じて検討団体を立ち上げるなどして、地域の皆さまから意見を聞きながら進めていく。

行政情報化推進事業

問 電子申請でのオンライン決済導入により、どのような効果を見込んでいるのか。

答 24時間365日、いつでもどこからでも市役所やコンビニエンスストアに行くことなく、必要書類の申請と手数料の支払いを一連の手続きで完了できるようにするため、申請にかかる手間や負担が大幅に削減される。

高齢者福祉推進事業

問 難聴高齢者補聴器購入費の補助金の内容は。

答 補聴器本体の購入にかかる費用の2分の1、上限3万円を助成する制度である。

問 対象者の条件は。

答 対象者の条件は4つあり、一つ目が、市内に住所を有する65歳以上の方、二つ目が、両耳の聴力レベルが30デシベル以上の方で、身体障害者手帳の交付に至らない方、三つ目が、耳鼻咽喉科専門医の医師の診断を受け補聴器が必要とされた方、四つ目が、市民税非課税世帯の方である。

介護予防普及啓発事業

問 認知症・フレイル（※2）予防教室に、どのような効果を期待しているのか。

答 身体機能の総合的な向上を図り、認知症・フレイルへの進行を遅らせ、健康寿命の延伸につながる効果を期待している。
(3/11 予算決算委員会)

特定不妊治療等支援事業

問 不育症治療助成制度が活用されるためには、不育症に対する市民の理解を得ていく必要があると考えますが、市民への啓発についての考えは。

答 この制度についての周知を行うことで、不育症に悩む夫婦が検査や治療を受けるきっかけとなり、周

囲の理解の下、治療が継続できるよう、不育症に対する啓発を行う。

誘致活動事業

問 工場の廃熱をエネルギーとして有効活用する廃熱利用脱炭素システムの農業分野における需要や活用の用途は立っているのか。

答 農業従事者等との意見交換の場も設け、実際に活用される事業形態を把握した上で、その事業性を検証したい。

農業経営支援事業

問 スマート農業補助金の予算が増額した理由は。

答 市内の農機具店等に状況を確認したところ、今後もスマート農業機器の導入に対する農業者からの相談が多いことが認められたため、増額をした。

漁業者・団体支援事業

問 カキ養殖を新たに実証実験することだが、カキに着目した経緯は。

答 近年、東三河漁協青年部に所属する漁業者たちが中心となって、愛知県と協力して自生カキの養殖実

験を開始しており、新たな水産資源としての可能性が見込めると判断した。
(3/12 予算決算委員会)

幹線道路整備事業

問 上八軒家井戸沢線は衣笠小学校の通学路である。工事期間中は通行規制が必要になると思われるが、通学路の安全確保や車両の円滑な通行については、どのように考えているのか。

答 片側交互通行を採用するほか、交通誘導員を配置することにより、安全かつ円滑な通行確保に努めていく。また、通学路の安全対策については仮歩道を設け、小学校と連携して通学の注意点を児童へ事前に周知することで、安全確保を図る。

コミュニティバス運行事業

問 中山線のデマンド運行（※3）の実証実験開始までの今後のスケジュールは。

答 事前アンケートの実施、事前周知、バス停の設置を行い、10月1日から実証実験を開始する予定である。